

藤田武夫先生記念号によせて

藤田武夫先生は昨年三月をもって、立教大学を定年退職されました。先生は昭和五年に九州帝国大学を卒業され、さらに京都帝国大学大学院に学ばれたのち、東京市政調査会に勤務されていました。昭和二十一年十月に本学に招かれ、教授に就任して以来二十四年にわたって、本学のためにつくしてこられました。

わが立教大学のある池袋の地は、今でこそビルの立ち並ぶ近代的な街になっていますが、敗戦後一年の先生が就任された当時は、まだ焼跡のバラック街で、それに続く本学も焼け残りの荒れた状態にありました。しかしその荒廃した学園の中に、新たな立教大学を築きあげようとする関係者の努力と、真の学問を求めて集まってきた学生達の熱意がみなぎっていたと思います。わが経済学部もそうした努力と熱意に支えられ、復帰されたばかりの河西教授（現名誉教授）を学部長として、再建にのり出した時に先生は迎えられました。

あの食料不足とインフレに悩む世相の中で大学を再建し、新制大学への移行と大学院の設置を急ぐことは、関係者にとってなみなみならぬ苦勞であったと思います。その間先生は経済学部教授として、二十七年には経済学科長となられ、本学の再建と充実に尽されました。また三十四年には経済学部長に就任、大学施設の増築にともなう大学院読書室の実現と、とくに経営学科関係のスタッフの充実に努力されました。

先生が財政学研究の第一人者であり、とくに地方財政論の開拓者として、多くの業績をあげられ、学界において確固たる地位を占められていることは、いまさらいうまでもありません。さらに、鋭い批判精神と、綿密な実態分析の

上に立った先生の学識は、社会的活動を通じても發揮され、わが国の財政のあり方への批判者として、高く評価されていることも周知のとおりであります。

先生は学部および大学院において、財政学総論および各論の講義を担当され、多くの学生を教育し、また研究者を育ててくれました。先生の学識だけでなく、厳格なうちにも包容力ある御指導に、接したことのある学生は多大の感銘を受けたものと思います。

われわれは先生の定年にあたり、先生の長年の本学への、ことに経済学部への貢献と御指導とにたいする感謝の一端をあらわすため、本号をもって先生の記念号といたしました。先生は定年により本学の専任を解かれることになりましたが、われわれとしては、先生にいましばらくの間非常勤講師として御足労をお願いしております。これから先生がお元気で活躍され、われわれのために御指導くだされますことをお願い致します。

昭和四十六年新春

経済学部長

宮 川 宗 弘